

MICRO- マイクロレジデンス・ネットワークフォーラム 2015 RESIDENCE 2015年11月22日(日)・23日(月・祝) 2日間開催 NETWORK 会場:国際交流基金日本語国際センター、岩槻駅東口コミュニティセンター FORUM

参加無料
(事前申し込み)

HB
オプショナルツアー
HomeBase Project
SAITAMA 2015 会場

国際的な創作活動の場である「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」の現在を知るため、世界中に広がる「マイクロレジデンス」(小規模で質の高いAIR)をテーマとしたフォーラムを開催します。国内外のAIRディレクター、アーティストを招き、アート、まちづくり、教育などの多分野を横断する活動紹介を行い、さいたま市独自のAIRについて考えるとともに、さらなる国際AIRネットワークの発展をめざします。

【主催】さいたまトリエンナーレ実行委員会 【共催】AIRネットワーク準備会、マイクロレジデンス・ネットワーク 【後援】駐日イスラエル大使館、オランダ王国大使館、忠北文化財団、忠清北道、韓国文化芸術委員会
【協力】国際交流基金、欧州文化首都ブルゼニ2015実行委員会、EU・ジャパンフェスト日本委員会、西ボヘミア大学デザイン・アート学部、埼玉大学石上城行研究室、女子美術大学アート・デザイン表現学科
アートプロデュース表現領域、東京藝術大学0 Jun研究室、武蔵野美術大学長沢秀之研究室、東京造形大学生嶋順理研究室、遊工房アートスペース、特定非営利活動法人アートNPOリンク

【助成】文化庁(平成27年度 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)

11
SUN 22

DAY1:全体会 (定員:120名)

[基調講演]

アーティスト・モビリティと文化外交におけるマイクロレジデンスの意義、役割

マリオA. カロ(Res Artis理事、前代表)

[プレゼンテーション&ディスカッション]

世界のAIR、多様なネットワーキング、文化交流のかたち

Case 1

Microresidence Networkとは～活動事例と今後の展開

村田達彦(マイクロレジデンス・ネットワーク、遊工房アートスペース)

マイクロレジデンス・ネットワークの提唱者である遊工房アートスペースは、東京の杉並区の住宅地を拠点に、日本の独立系AIRの草分け的存在として、国内外のアーティストの活動を支援してきました。現在、マイクロレジデンス運営者間のネットワーキング活動を活発化させ、アーティストおよび運営者の育成と、社会におけるAIRの顕在化に注力されています。欧州文化首都との取り組みをはじめとしたこれまでの活動と、今後の展開についてお話をいただきます。

Case 2

HomeBase Project

アートと社会をつなぐノマド型国際AIR

アナット・リトゥイン(HB Project創設者、アーティスト)

「HomeBase(HB) Project」は、アーティストのアナット・リトゥインにより2006年に創設された、非営利の移動型国際AIRプロジェクトです。現代の社会状況の変化により生まれた空き家となった場所をアーティストの「家」と見立て、一定期間、滞在制作の拠点とし、日常生活におけるアーティスト、芸術の役割を発展させることを目的としています。さいたまトリエンナーレ2016のイベント「HomeBase Project SAITAMA 2015」の実施にあたり、HBのこれまでの活動のほか、さいたまでの取り組みについてご紹介いただきます。

Case 3

パフォーミングアーツにおけるAIRの可能性

丸岡ひろみ(国際舞台芸術交流センター理事長、TPAM事務局長)

国際的な流れの中、パフォーミングアーツの分野においてもAIRへの需要が高まる近年、日本でもさまざまな活動が行われています。中でも国内外のパフォーミングアーツにおけるアーティスト、制作者の交流・ミーティングを目的とした「TPAM」の取り組みは、国際交流のプラットフォームとして世界でも最も注目されるプロジェクトのひとつです。なぜ、ミーティングが重要なのか。活動内容とその意義についてご紹介いただきます。



Microresidence Network

DAY2: 分科会＆オプショナルツアー (定員:各セッション40名/総括120名)

Session 1

世界の多様なAIRから～マイクロレジデンスの魅力と可能性

マイクロレジデンスの大きな魅力のひとつは、自由でフレキシブルな発想と運営方法にあります。このセッションでは、主にアーティストが主導して行うAIRプログラムのディレクターにより、アートニシアティブの手法、ネットワーキングの実践者からの事例発表と、AIRの可能性についてディスカッションいただきます。

◎発表者: エイ・コー(New Zero Art Space/ミヤンマー)、ミクリッチ・トノヤン(ACOSS AIR/アルメニア)、テホー・ハン(Public AIR/韓国)、坂本泉(AIR/山梨)、飯島浩二(C.A.J. AIR/さいたま)

◎進行: 小田井真美(Move Arts Japanディレクター)

Session 2

AIRと教育現場との協働、実践～ECoCとの連携とY-AIR構想

マイクロレジデンス・ネットワークでは、次世代を担う若手アーティストの育成のため、教育現場(藝大・美大)とAIRとが連携する国際プログラム「Y-AIR」に取り組んでおり、欧州文化首都事業と連携し、チエコ、ブルゼニ市との若手アーティストの相互派遣および、西ポーランド大学サマーアートキャンプへの学生派遣を行っています。本分科会では2015年度の派遣アーティスト、学生によるプレゼンテーションと、今後の展望、可能性について議論します。

◎発表者: 三原聰一郎(アーティスト/OPEN AIR)、ミカル・カブ(アーティスト/遊工房アートスペース)、町田久美(画家/ArtCamp2015)講師) およびArtCamp2015参加学生

◎進行: 辻真木子(遊工房アートスペース)

Session 3

地域とAIR～文化の継承、地域資源、社会・市民・アートをつなぐ場づくり

今、地域振興やまちづくりにとって、アートは重要な要素となっています。中でも、地域とアートをつなぐ役割を担い、文化の継承、地域資源の活用を積極的に行うAIRの存在が注目されています。地域が持つさまざまな社会課題に対する取り組みについての事例報告と、これらの活動への期待、今後の地域・まちづくりの展望について語り合います。

◎発表者: アナット・リトゥイン(HB Project)、萩原さとみ(ファーム・インさざぎ山/さいたま)、三上清仁(AIR Onomichi/広島)、森純平(PARADISE AIR/千葉)

◎進行: 菅野幸子(国際交流基金コミュニケーションセンター プログラム・コーディネーター)

総括

Life×Community×Art: AIRでつなぐ、デザインする私たちの未来

3つのセッションを含む2日間の発表、議論を共有します。私たちが、ひとりひとりの未来を描き生きるため、アートの枠組みを越えた世界での多様なAIRの活動と意義、今後の発展について話し合います。

◎発表者: 小田井真美、辻真木子、菅野幸子

◎コメントーター: マリオA.カロ、柴田尚(S-AIR代表、AIRネットワーク準備会)

◎進行: 日沼禎子(さいたまトリエンナーレ2016プロジェクトディレクター)

【お申し込み方法】

11月4日(水)10:00から11月10日(火)17:00まで、さいたまトリエンナーレ2016公式ウェブサイトの入力フォームよりお申し込み下さい。http://saitamatriennale.jp/また、22日(日)フォーラム終了後に懇親会を開催しますのであわせてお申し込み下さい。(主催:AIRネットワーク準備会)※参加費2,000円(予価)を当日会場でお支払い下さい。

22

全体会

場所:国際交流基金日本語国際センター(ホール)
(逐次通訳)

13:00

主催者あいさつ

13:05

さいたまトリエンナーレ「未来の発見!」
概要および本イベントの主旨について

13:15

メッセージ| 柴田尚(AIRネットワーク準備会)

13:20

【基調講演】

アーティスト・モビリティと文化外交におけるマイクロレジデンスの意義、役割
マリオA.カロ(Res Artis理事、前代表)

14:20

ブレイク

14:30

【プレゼンテーション&ディスカッション】
世界のAIR、多様なネットワーキング、文化交流のかたち

Case 1

Microresidence Networkとは～活動事例と今後の展開
村田達彦(マイクロレジデンス・ネットワーク、遊工房アートスペース)

Case 2

HomeBase Project
アートと社会をつなぐノマド型国際AIR

アナット・リトゥイン(HB Project創設者、アーティスト)

Case 3

パフォーミングアーツにおけるAIRの可能性

丸岡ひろみ(国際舞台芸術交流センター理事長、TPAM事務局長)

15:30

ブレイク

15:40

Case 3| パフォーミングアーツにおけるAIRの可能性:

丸岡ひろみ(国際舞台芸術交流センター理事長、TPAM事務局長)
パネルトーク、Q & A [進行:日沼禎子]

16:30

終了

17:00

懇親会

登壇者プロフィール



マリオA.カロ | Mario A. Cardo
Res Artis理事、前代表。N.Y.在住の研究者、キュレーター、現代美術評論家。研究テーマはミュージアムにおける先住民族文化の表現、写真の実践における郷愁の美学に属するビジュアル・プロジェクト、コロニアル・ディスコースの美術史的方法論と創作などがある。アカデミックな分野を通して、世界の様々なコミュニティの文化交流の促進に務めている。



村田達彦 | Tatsuhiko Murata
遊工房アートスペース共同代表。創作・展示・滞在のできる遊工房アートスペースを、村田弘子と共に運営する。20年もの間、15ヶ国、200名余の海外からの滞在アーティストをサポート。2010年からマイクロな独自の運営をしているAIRを「マイクロレジデンス」と名付け、国内外のネットワークを通して、社会実験としての役割について調査・研究している。2014年までRes Artis副代表兼理事。



アナット・リトゥイン | Anat Litwin
HB創設者、アーティスト、キュレーター、研究者。現在、エルサレム市が運営するアートセンター「Beitai」のディレクターを務めている。2001年ベザレル・アートアカデミー卒業、2005年アーツ・フロム・ハンター大学修士課程修了。イラエル、日本、ギャラリー等で展覧会を行い、アーティスト・ウォーキングキーレンジ研究奨学金を得て、Guggenheim Lab、ResArtis、ヴォルタ・アートフェア等でHBについて事例発表を行った。



丸岡ひろみ | Hiromi Maruoka
国際舞台芸術交流センター(PARC)理事長。2005年よりTPAM(11年より国際舞台芸術センター)でTPAMディレクター、舞台作曲者オーフンネットワーク(ON-PAM)副理事長。08年-11年TPAMにてETMセラテート・ミーティングを開催。その他TPPAF(ボストン・インスティチュート・オブ・ザ・アーツ)でTPAMにてETMセラテート・ミーティング・イン・レジデンスについての国際会議「AIR@TPAM」の企画運営など、舞台芸術の振興と国際交流推進のための活動を行っている。



エイ・コー | Aye Ko
アーティスト、ニューゼロ・アートスペース(New Zero Art Space)創設者。1963年、ミャンマー、バティエン生まれ。ポストモダンアートを取り入れ、パンクで開催された第二回アートビバ(Asia Topia)にて最初のパフォーマンス作品を発表。99年から2015年まで海外30カ国以上、国内50カ所以上の展覧会に参加、個展を行う。08年にミャンマーにおける現代芸術の発展を目指した「ニューゼロ・アートスペース(New Zero Art Space)」を設立。



テホー・ハン | Tae-ho Han
Public AIR代表。南ソウル大学および昌原大学講師。1979年ソウル生まれ、清州市在住。2010年にブレーメン芸術大学卒業。Public AIRは2010年に非営利組織として設立。視覚芸術、文芸、音楽に取り組む若手のアーティストに、スタジオ、展示会場、手頃な住宅等のより良い環境を提供することで彼らの活動を支援している。



ミクリッチ・トノヤン | Mkrlich Tonoyan
アーティスト、AKOS Cultural NGO代表、ACOSS AIRディレクター。1990-94年、兵士としてナゴルノ・カラバフ戦争に巻き込まれ、死、破滅、絶望に直面し、その経験は今でもその創造的、社会的な活動に大きな影響を与えている。アートを通して危機に取り組み、個人、社会、政治、理想とは何か捉え直す活動をしている。



坂本泉 | Izumi Sakamoto
山梨県甲府市生まれ。女子美術大学卒業後、美術館勤務、教師を経て渡米。帰国後の2005年元産院をアートスペースに改修し、Artist in Residence山梨「AIRY」を立ち上げ、今、10周年記念事業山梨県内4カ所が結ぶAIR「We breath AIR」-同時多発どこでもAIRを実施。まち、アーティストと地域の人々を結ぶプロジェクト多数。山梨県初のインターナショナルAIR代表として活動を続けている。



小田井真美 | Mami Odai
AIR勉強家、Move Arts Japanディレクター、さっぽろ天神山アートスタジオディレクター。1966年広島市生まれ。2008年から2009年まで国際的なAIR研究機関Trans Artists(アムステルダム)に派遣され、オランダの文化政策、AIRと芸術支援に関する調査研究を行った。アーティスト・プロジェクト・ディレクター(2010-11)、アーティスト代3331のMove Arts Japanポータルサイト運営を歴任。現在は札幌を拠点にアーティストの移動の促進と国内のAIR事業立ち上げを支援する活動を国内各地で行う。



飯島浩二 | Koji Iijima
C.A.J. AIRディレクター、美術家、総合格闘家(MMA)。1973年横浜生まれ、さいたま市在住。1997年武蔵野美術大学卒業後、同大学の助手及び講師を務めながら格闘家としてデビューを果たす。2007年にL.A.に移住し、アーティストとプロジェクトを組むことで活動。立体作品「パフォーマンス」と会話を交換。観客とのコミュニケーションを誘発する作品群を発表。2004年光州ビエンナーレ(韓国)、2009年「The Earth Art Festival」(メキシコ)、他、展覧会多数。



三原聰一郎 | Soichiro Mihara
アーティスト。1980年東京生、現在、京都を拠点に国内外で活動。テクノジーと人間との関係性を問うシステムをアート作品として提示している。主な展に「The world filled with blank」(2013)、クリエイターベタニエン、(2014)、「グリーン」(2014)、「SOUNDART - sound is a medium of art」(2012、ZKM、ドイツ)、「Simple Interaction - soundart from Japan」(2011、ロス・スケリ現代美術館、デンマーク)等。欧州文化首都「Pilsen 2015」との連携事業「OPEN AIR」へ、日本との相互派遣アーティストとして招聘。



ミカル・カブ | Michal Cab
コンセプチュアルアーティスト、パフォーマー、音楽家。1980年チコ生まれ、プラハ芸術アカデミー映像学部(FAMU)でオーディオビジュアルを研究し、現在、同アカデミーの博士号を取得。音と映像、慎重さと素朴、独創的な共同と徹底した個人作業(という異なる性質をもつもの)の間を行き来する作品を作製。主にPure Dataによるオープソフウェア、コード、フィードバックを用いて演奏、制作を行なう。欧洲文化首都「Pilsen 2015」との連携事業「OPEN AIR」との相互派遣アーティストとして遊工房アートスペースへ招聘。



町田久美 | Kumi Machida
画家。1970年群馬県高崎市に生まれる。1994年多摩美術大学絵画科日本画専攻卒業。2006年アーティスト・イン・レジデンス・プログラム「ARKO」(大原美術館、岡山)で滞在制作。2008年、文化庁芸術在外研修員としてデマー



【関連プログラム】さいたまトリエンナーレ2016イベント

HomeBase Project SAITAMA 2015

滞在期間:10月30日(金)―11月27日(金)

オープン・ハウス(公開プログラム):11月20日(金)―24日(火)

移動型国際アーティスト・イン・レジデンス「HomeBase Project」を岩槻区・人形の東玉社員寮にて実施します。期間中6名のアーティストによる成果発表「オープン・ハウス」を開催。併せてご来場下さい。

【参加アーティスト | Artists】

エイドリアン・ブリュン | Adrian BRUN(アルゼンチン / オランダ | Argentina / The Netherlands)

潘 逸舟 | Ishu HAN(中国 / 日本 | China / Japan)

飯島 浩二 | Koji IJIMA(日本 | Japan)

パリ・レガキス | Paris LEGAKIS(ギリシャ | Greece)

アナット・リトゥイン | Anat LITWIN(アメリカ / イスラエル | USA / Israel)

三田村 光土里 | Midori MITAMURA(日本 | Japan)



さいたまトリエンナーレ2016とは



**SAITAMA
TRIENNALE
2016**
さいたま トリエンナーレ 2016

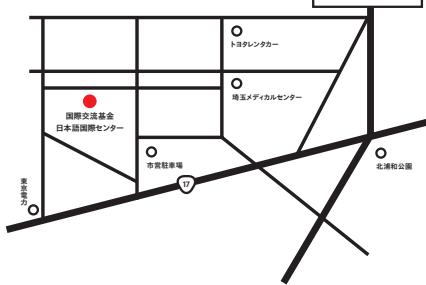
2016年9月24日[土]-12月11日[日]

ACCESS

会場案内

国際交流基金日本語国際センター

北浦和駅 ⇔ 11月22日(日)
全体会



〒330-0074

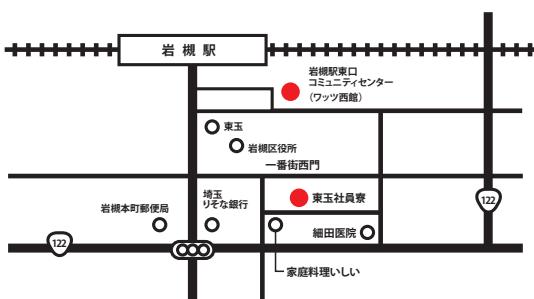
埼玉県さいたま市浦和区

北浦和5-6-36

Tel: 048-834-1180

アクセス: JR京浜東北線

北浦和駅西口より徒歩8分



11月23日(月/祝)分科会&オプショナルツアー

岩槻駅東口 コミュニティセンター

〒339-0057

埼玉県さいたま市岩槻区本町3-1-1

Tel: 048-758-6500

アクセス: 東武アーバンパークライン(野田線)

岩槻駅より徒歩1分

人形の東玉 社員寮

〒339-0057

埼玉県さいたま市岩槻区本町3-10-2

アクセス: 東武アーバンパークライン(野田線)

岩槻駅より徒歩3分

東京方面から岩槻駅へお越しの方は、JR大宮駅で東武アーバンパークライン(野田線)にお乗り換えください。
大宮駅より岩槻駅までは約11分。

126万人が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだすことを目指す国際芸術祭。テーマは「未来の発見!」。アートを鑑賞するだけでなく、共につくる、参加する芸術祭です。まちの成り立ちや知られざる自然、土地の歴史など、生活都市ならではの魅力が見える、市内のさまざまな場所が会場となります。国内外のアーティストたちが発見する、多様で多彩なさいたま。市民の皆さん、観客の皆さんとともに、自分たちのこれからの未来を発見していきます。2015年度はイベントとして、本番となる2016年に繋がるプロジェクトを市内各所で展開します。

主催:さいたまトリエンナーレ実行委員会

問い合わせ先(受付時間 平日8:30~17:15)

さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局

(さいたま市 スポーツ文化局 文化部 文化振興課 トリエンナーレ係)

〒330-9588 埼玉県さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号

Tel: 048-829-1225 Fax: 048-829-1996 Mail: bunka-shinko@city.saitama.lg.jp

詳しくはウェブサイトにアクセス!

<http://saitamatriennale.jp/>

このイベントの開催に要する経費は217万円です。(国庫補助金を差し引いたさいたま市の負担額は、147万円です。)